

ファミリーサポートセンターより活動報告

平成28年6月より始まりましたファミリーサポートセンター。子育てのお手伝いをしてほしい方(依頼会員)と子育てのお手伝いができる方(協力会員)とがファミリーサポートセンターへ入会し、センターが会員同士をつないでそれぞれの

活動が行われます。年度初め日野町には「ファミリーサポートセンターって何？」という方ほとんどでしたが、様々なメディアにも取り上げられ、じわじわと会員数を増やし、実際の預かりや送迎も始まっています。



実際の活動の一例

【実例①】保育園児のお子さんを持つ依頼会員と、保育園が開くまでの預かりと送迎をする協力会員の場合

いつ	だれが	何をする
7:05	依頼会員	子どもと一緒に自宅を出発
7:15	依頼会員	協力会員宅へ子どもを預け、仕事に向かう
↓	協力会員	自宅にて、預かったお子さんとぬり絵や絵本を楽しむ
7:30		保育園の開く時間に合わせ、自宅を出発
7:45	協力会員	保育園へ無事送り届ける(主に徒歩、雨が強い日などは自車を使う)
8:00	協力会員	自宅へ到着、活動終了

※この部分が活動時間となり、報酬の算出をします。

【実例②】上の子を習い事へ連れていく依頼会員の下の子の預かりをする協力会員の場合

いつ	だれが	何をする
13:30	依頼会員	協力会員宅へ子どもを預けに行く
↓	協力会員	持参したおもちゃでのあそび
14:40		おやつを食べる
15:15	協力会員	お母さんを思い出したような表情を見せたため、抱っこ。
↓		そのままお昼寝。
16:40	協力会員	昼寝から起きたので、ビデオ鑑賞
17:00	依頼会員	協力会員宅へ子どもを迎えにきて、活動終了

※この部分が活動時間となり、報酬の算出をします。

ファミリーサポートセンター 会員募集中!

実際の預かりや送迎は、ファミリーサポートセンターの会員でなければ依頼も協力もできません。会員登録は随時行っておりしますので、お気軽にお問い合わせください。

依頼会員…日野町在住または在勤で0歳～中学生までのお子さんをお持ちの方。

協力会員…日野町在住の20歳以上で、自宅での預かりまたは自車を使つての送迎ができる方。協力会員養成講座を受講できる方。

●問い合わせ先

ファミリーサポートセンター日野
☎0800-9752-1515

7月までの活動の実績 (28年6月5日～7月31日まで)

	預かり	送迎	相談	チャイルドシート等貸し出し
	33件	34件	4件	3件

第51回滋賀県消防操法訓練大会 準優勝!

7月31日(日)、滋賀県消防学校で第51回滋賀県消防操法訓練大会が開催され、日野町消防団を代表し、第1分団(日野・西大路・鎌掛地区)の選手の皆様がポンプ車の部に出場されました。

大会は、県内各市町の代表チームがポンプ車の部(17チーム)、小型ポンプの部(12チーム)に分かれて操法を競われました。日野町消防団の選手の皆様は、多くの仲間からの大声援のもとで一致団結し、訓練の成果を発揮され、見事準優勝という成績を収められました。

5月上旬からの長期にわたる操法訓練によって、技術の習得はもとより、消防団員の結束をより深められました。大会直前の早朝訓練では、全団員が集まり、出場選手の練習を見守り、応援しておられました。

出場された選手の皆様、出場選手を支えられた消防団をはじめ、ご家族、関係者の皆さんおめでとうございます。



出場選手

- 指揮者 牧野 和也さん
- 1番員 瀬川 佳伸さん
- 2番員 古澤 修さん
- 3番員 岩谷 興太郎さん
- 4番員 植田 真之介さん
- 補助員 水本 哲也さん
- 補助員 岡村 忠英さん

綿向雑感

2016年9月

日野町長 藤澤直広

リオデジャネイロオリンピックでは、熱戦が繰り広げられました。日本選手も大活躍。男子体操の団体優勝、バドミントンや卓球の団体戦も圧巻でした。人は鍛えればあれほどまでに強くなり、技術が磨けるのかと感動します。それぞれの選手が努力されてきたからこそ心に響くのだと思います。難民選手団として活躍された選手もおられます。平和な国際社会をつくることの大切さを実感します。

盛り上がるオリンピックの期間中の8月15日、全国戦没者追悼式が開催されました。テレビ放映される式典にあわせて黙祷をしました。「天皇陛下のお言葉」には、「過去を顧み、深い反省とともに、今後、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願います」とありました。首相の式辞には「反省」の言葉がありません。日本国憲法前文には「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し……」とあります。政府を代

表する者こそ戦争への反省を心に刻まなければなりません。マスコミを通して戦場で過酷な経験をされた方が、辛い加害行為にもふれ「二度と戦争をしてはならない」という決意を伝えようとされていることに敬服します。若い人たちが「戦争をしてはならない」を合言葉にデモや集会をし、政治の場で活躍しました。その中心となったSEALDs(シールズ)自由と民主主義のための学生緊急行動)が15日解散。「平和憲法の下で生まれ育ち、憲法の理念が私たちの活動の背中を押してくれた。終わりの日は始まりの日」「戦後100年を迎え、祝いの鐘をならしましよ」とこれからの行動を呼びかけました。

昭和39年、東京オリンピックは、平和国家として国際社会へ復帰し「戦後復興」をとげた姿が世界に示されました。万国旗が揺れる小学校の運動会で聖火リレーが行われたことを思い出します。平和な世界をつくるために力を合わせましょう。